

【部活拝見】特集「部」に昇格 希望に燃えて頑張ってます

体育会充実 43部 2同好会

体育会は、43部2同好会から成り、いずれの部もリーグ戦や公式戦で常に上位入賞し、健闘している。

そこで、今春、同好会から部に昇格した射撃、体操、日本拳法、ハンドボール、ボテビル各部の活動やモットーなどを専大スポーツ編集部がまとめた。

念願の部に昇格して希望に燃える5部の今後の活躍に期待したい。

射撃部 少人数和気あいあい



射撃部は現在、5人(男子4人、女子1人)の部員で活動している。部内は上下関係のない、アットホームな雰囲気。近くに射撃場がないため、世田谷にある射撃場まで通い、個人練習を中心に、月に1、2回、全体練習を行っている。

10メートル先から、わずか数センチの的を撃ち抜く射撃という競技では、どれだけ中心に

当てるかが勝負のカギ。「遠く離れたマッチ棒の先を狙うように難しい」とただ一人の女性部員である田中ひとみ主将(文4・狭山ヶ丘高)。競技に使用されるライフルの重さは約10キロ、射撃時に着用するコートも非常に重く「夏は暑さも加わり、苦しい」という。

そうした中で、いかに集中力を持続させるかが重要になる。日々の練習で培われた技術力とともに精神力が試合結果に大きな影響を与えるのだ。

現在、秋季大会へ向けて、個々の技術力向上を目標に活動している。今後の活躍に期待したい。(中村有希・法1)

体操部 他大学と盛んに交流



今年4月に、同好会から部に昇格した体操部。現在、部員は男子7人と少人数ではあるが仲良く、和やかな雰囲気の中で日々のトレーニングに打ち込んでいる。

練習は火曜、木曜の16時10分から20時、土曜の13時から19時の週3日、第1体育館で行われている。マット上での宙返りの練習を中心にメニューを組み立てている。

大会は年に3、4回行われており、5大学(大東文化、玉川、明星、文京)とは合宿などで交流しながら切磋琢磨している。

下高呂直大主将(法3・八潮高)は「頑張れば誰にでもできるようになるし、うまくなれる。出

来るようになればなるほど楽しくなる」と、体操の魅力について話してくれた。さらに、今後の抱負を聞くと、「部に上がったからには、試合で良い成績を残したい」と力強く語った。

(井上寸子・文1)

日本拳法部 東日本優勝が目標

日本拳法部には、現在14人の男子部員が在籍。練習は月曜から金曜までの週5回、第1体育館のボクシング道場を利用して行われている。

日本拳法は、なじみの薄い競技だが、防具を着用し、突き・蹴り・投げ・関節技を駆使して戦う総合格闘技。体重別の階級がなく「自分よりも大きな相手に勝つことが出来るのも魅力」と前泊竜貴主将(経営4・港北高・2段)は語る。

毎日の練習は入念な準備運動から始まり、技の基本練習をこなした後、防具を着けての乱取り(実践形式の練習)を行う。練習とはいえ、乱取りでは試合さながらの緊張感が漂う。その他にも、年3回の強化練習や長期休暇を利用しての合宿など、活動は積極的だ。「目標は東日本大会での優勝」と



前泊主将は言う。昨年は東日本大学対抗リーグ戦4位、東日本選手権3位と好成績を残しており、今後の躍進が期待される。

(高橋伸明・文1)

ハンドボール部 仲間意識強く和やか



ある日の午後、蒸し暑い体育館の中で声を張り上げ汗を流す一つの部があった。今年めでたく同好会から部に昇格したハンドボール部である。

ハンドボールは7人競技で、スピード感や独特のシュートフォームが特徴。現在、部員は3年3人、2年5人の計8人で、上下関係がなく和気あいあいとしているのも魅力の一つである。

練習は火、木、土曜日の週3回で、火曜は主に北グラウンド、木、土曜は第1体育館で約2、3時間励む。ランニングや瞬発力を鍛えるためのフットワークなどで十分に下半身を強化してからボールを使ったシュート練習に入る。夏休みの現在は月曜にも活動。8月26日から29日まで山中湖で、青学大や神大との練習試合を含んだ合宿を行う。

田岡正臣主将(文3・高知追手前高)は「部に昇格して苦労することが多いが、気持ちの面でプラスに影響している」と話した。

(岩谷純一・文1、染谷智子・文1)

ボディビル部 全員ベンチプレス100kgクリア



己の肉体と精神を磨きつづけるボディビル部は男子15人が在籍、生田総合体育館トレーニング室で練習に励む。合同練習は水曜だが、毎日自主練習をする部員も多い。

今年、同好会から部へと昇格。平戸義人主将(商3・長崎南山高)は「先輩たちの築いた実績が評価された結果、それを引き継ぎ、もっと部を強くしたい」と熱く語る。

ボディビルは、筋肉の発達や体のライン、プロポーション等の美を競うボディビルディングと、ベンチプレス、スクワット、デッドリフトの3種目で競うパワーリフティングの二つに大

別される。全員がベンチプレス100kg以上を持ち上げ、関東学生大会、全日本学生パワーリフティング選手権で優勝した選手もいる。秋の全日本学生ボディビルディング大会では、学生チャンピオンを狙う。大きな自信と実績を持つボディビル部のこれからに期待したい。

(大野愛子・経済1、小平百子・文1、稲田礼子・法1)
[8月15日/ニュース専修11面]